



徳川美術館 名品コレクション展示

令和6年9月10日(火)~12月15日(日)

展示期間 A:9/10(火)~10/14(月・祝) B:10/16(水)~11/15(金) C:11/16(土)~12/15(日)

【第3展示室】

凡例:○は重要美術品を示します。

大名の室礼 - 書院飾り -

大名の公式行事は、表御殿の「書院」あるいは「広間」で行われた。御殿の各部屋に設けられた飾り付け専用の空間-床の間・違棚・書院床-には、武家の故実によって各種の道具が飾られた。殿中の飾り付けや典礼を「室礼」といい、江戸幕府はその手本を室町幕府の故実にもとめたので、足利将軍家が秘蔵していた「東山御物」を第一に、唐物と呼ばれる中国製の品々を中心とした飾り付け法が規式とされた。

多くの書画や工芸品の産地が中国であっても、それらを飾り道具に採りあげ、とりどりに組み合わせ、調和の美を創り出したのは室町の武家社会であり、その美意識や価値観は、そのまま江戸時代の大名家に伝えられた。

No.	指定	名称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
広間						
押板飾り						
1	○	達磨・郁山主・政黄牛図 三幅対 大名物	伝無準師範筆・同賛 足利義満・成瀬正虎 (犬山成瀬家2代)・徳川光友(尾張家2代)所用	南宋	13	A
2		靈照女・花鳥図 三幅対	清原雪信筆	江戸	17	B
3		観音・梅竹図 三幅対	伝可翁筆 松平義真(梁川松平家3代)所用	南北朝-室町	14-15	C
4		青磁菊花文三ツ足香炉		元	14	
5		青磁燭台		明	16	
6		青磁竹節文中蕪形花生		南宋-元	13-14	
7		堆朱松下観月図香合 彫銘「楊茂造」	松平義真(梁川松平家3代)所用	明	15	AB
8		堆朱松下人物図香合		明	16-17	C
9		火道具		江戸	18	
10		古銅饗養文分銅形花生 一对		明	15-16	
違棚飾り						
11		古銅鴨香炉	徳川義直(尾張家初代)所用	明	14-15	
12		紅花緑葉牡丹尾長鳥文沈箱		明	16	AB
13		堆朱牡丹尾長鳥文香箱		明	15	C
14		堆朱楼閣人物図食籠		元	14	AB
15		青磁文字文塵壺		元-明	14	C
書院床飾り						
16		箔絵花鳥文軸盆		明	16-17	AB
17		堆朱屈輪文盆 彫銘「甲戌杓前州橋西林家造」		南宋	13	C
18		古銅雨龍形筆架		元	14	
19		雨龍透彫刀子 銘 康継作之		江戸	17	
20		堆黒屈輪文軸筆		明	15	AB
21		箔絵龍文軸筆 銘 大明万暦年製	徳川義直(尾張家初代)所用	明	16-17	C
22		蠟石羅漢形文鎮		明	16-17	
23		古銅水牛形水滴		明	16-17	
24		端溪雲龍硯		明	16-17	
25		染付高士観月図硯屏		明	16-17	
26		紫石卦算 二対の内		江戸	19	
27		堆朱松下人物図印籠・堆朱唐花文盆		明	16-17	AB
28		堆朱梅下人物図印籠・堆朱愛蓮図盆		明	15-16	C
29		金銅仙蓋瓶形水注	徳川義直(尾張家初代)所用	明	15	

No.	指定名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
鎖の間						
上段の間						
1	鯉牛双硯			室町	15-16	
2	黄銅葵紋唐草彫台子皆具 一式			江戸	19	
次の間						
3	二大字「正名」		徳川家斉(11代将軍)筆	江戸	18	A
4	七言二句 「威加海内帰故郷 安得賢士守四方」		徳川家綱(4代将軍)筆	江戸	17	B
5	三大字「懐明德」		徳川綱吉(5代将軍)筆	江戸	17-18	C
6	青銅花生(方壺)			明	16	
7	芦屋立鼓形釜			室町	16	
8	唐物自在釜掛			明	16	
9	秋野蒔絵中次			江戸	17-18	AB
10	葵紋散蒔絵棗			江戸	18	C
11	斗々屋茶碗			朝鮮王朝	16	A
12	黒楽茶碗「一楽」字印		渡辺規綱(又曰庵)作 安井家寄贈	江戸	19	BC
13	安南染付花鳥文水指		岡谷家寄贈	ベトナム	17	
14	南蛮芋頭建水			東南アジア	16-17	

【第3展示室の見どころ -大名の室礼 書院飾り-】

黄金に輝く広間は、名古屋城二之丸御殿にあった「広間・上段の間」である。大名が公務を行う場で、室内には、押板(床の間の前身)・違棚・書院床という飾り付けの空間が設けられ、格式や権威にふさわしい飾り付けが施された。

「上段の間」の向かい側に設けられているのは「鎖の間」で、天井から炉の上に鎖を吊って釜が掛けられるようにしてあったところからこの名がある。この部屋では四季を通じて釣釜がもちいられた。茶室と書院(広間)の中間に位置する座敷で、性格的には書院に属し、接待などに半ば公式的に使われた。